

## ＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和7年1月分）

### 【製造業】

○製造業は、11月の鉱工業生産指数は▲4.7%となった。ヒアリングでは、取引先の業況について好材料が4月以降にあるような話が聞こえるため、今は依然として耐える時期にあるとの声や、自動車部品関連において微減傾向が続いているなか、新規の見積もり案件もあるが、設備投資を要するものになるため、積極的に投資してまで対応するのか判断に迷っているとの声が聞かれた。

○地場産業は、11月の鉱工業生産指数は、全産業で下降となった。ヒアリングでは、商品によってはインバウンドの効果が出ているとの声や、円安の流れを受けて made in Japan として販路を輸出に注力する動きがあるとの声が聞かれた。

### 【設備投資】

○設備投資は、12月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比11.2%増加となった。ヒアリングでは、省エネ診断により効果が期待できた設備の導入を検討する予定との声が聞かれる一方で、中華圏で春節に入っていることもあり、設備投資の動きは小さいとの声が聞かれた。

### 【個人消費】

○個人消費は、12月の販売額は、全体で前年同月比0.8%増加となった。ヒアリングでは、飲食部門は新年会フェア、冬の特別メニューフェアなどにより堅調に推移しているとの声や、物販では都度セール等により原材料の価格高騰による影響は把握し難いが、飲食・食物販は価格改定が頻度高く実施されているとの声が聞かれた。

### 【観光】

○宿泊者数はインバウンド客の増加等により、前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前と同程度まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

### 【資金繰り】

○12月の制度融資実績は、金額で5ヶ月連続で減少となった。資金需要は全体的に根強く、特に製造業の資金ニーズが伸びているとの声が聞かれた。

### 【雇用】

○雇用面は、12月の有効求人倍率は1.53倍と3ヶ月連続で1.50倍を上回った。ヒアリングでは、人材開発チームの設置や社内での人材養成に努めた結果、受注増に対応できているとの声が聞こえる一方で、賃上げをしないと人が来ないので、業績を上げて賃金に反映していくしかないが、中小企業が大企業のような上げ幅についていくのは厳しいとの声が聞かれた。

### 【景気動向】

11月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲3.3ポイント、12月の中小企業の景況感  
は同▲2.0ポイントとなった。